

秩父版FEMA～救急・救命対応シナリオから見えてくる課題とその対応～

1. 中津川地区 岩盤崩落における住民支援

岩盤崩落により秩父市街地とのアクセス手段であった県道ルートを失った中津川地区の住民は、唯一のアクセス手段を道路幅が狭く、通行に長時間を要する林道ルートに委ねることになり、長期間不便な生活を強いられた。

- 住民支援が行われる中で、林道ルートががけ崩れや大雪などにより通行できなくなり、中津川地区が孤立地域になった状況で、救急・救命事案が発生した場合の対応が課題となった。



(崩落個所の位置関係)



(県道被災状況)



(ドローンによる物資配送状況)

2. 救急・救命対応シナリオの作成

救急・救命活動には、救急車の他、ヘリコプターによる空路からの活動が想定される。ヘリコプターの特性を明確にし、秩父地域の地形的特徴を踏まえながら、県関係機関、市町、消防、警察などで構成する「風水害・雪害対策秩父地域会議」で救急・救命対応シナリオを整理

- ヘリコプターの特性
 - ①原則、夜間は出動しない。
 - ②離着陸に際しては、大規模空間で構成される場外離着陸場を使用し、地上に機体誘導員等(現場に到着している消防隊員)の配備が必要になる。
 - ③離着陸せずに救助する場合、防災ヘリがホイスト救助を行う。(ある程度の広場空間が必要)

●救急・救命対応シナリオ整理表

【日中におけるロケーション】

【夜間におけるロケーション】

	市街地	山間部	孤立地域
	場外離着陸場 有	場外離着陸場 有 または 広場空間 有	場外離着陸場 無 及び 広場空間 無
緊急性 小	救急車対応	救急車対応	救助手段に課題
緊急性 大	救急車 + ドクターヘリ	(場外離着陸場) 救急車 + ドクターヘリ (広場空間) 救急車 + 防災ヘリ	救助手段に課題

	市街地	山間部	孤立地域
	場外離着陸場 有	場外離着陸場 有 または 広場空間 有	場外離着陸場 無 及び 広場空間 無
緊急性 小	救急車対応	救急車対応	救助手段に課題
緊急性 大	救急車対応	救急車対応	救助手段に課題



(機体誘導員によるヘリ誘導)



(ホイスト救助)

- 日中は、緊急性の大きい場合ヘリが出動。
- 夜間は、救急車対応だけとなる。
- 孤立地域は、日中・夜間ともに救助手段に課題。

3. 救急・救命対応シナリオから見えてくる孤立地域での課題

- ヘリコプターが出動できる日中は、救急・救命手段を確保すべき。
- 機体誘導員等を必要とする場外離着陸場よりも、機体誘導員等を必要としないホイスト救助を可能にする空間の方が有用である。(ホイスト救助を可能にする空間は、大規模空間を必要としないため、整備が容易かつ安価)
- あらかじめホイスト救助ができる場所を定めれば、迅速な救助が可能になる。

4. 対応

ホイスト救助ポイントの提案

- 防災ヘリによるホイスト救助を可能にする空間を「ホイスト救助ポイント」として整備

- 条件(埼玉県防災航空隊)
- ・25㎡以上の面積
 - ・飛散物がない
 - ・車や人の出入りが無い
 - ・砂埃が発生しない
 - ・地盤が軟弱でない



- 平成26年2月の大雪で孤立した地域を参考に、迂回路や近年の災害発生状況を考慮して、ホイスト救助ポイント候補地を選定

- ・中津川地区 旧中津川小学校校庭
- ・浦山地区 新大神楽橋付近
- ・生川地区 武甲山御嶽神社駐車場
- ・両神(小森)地区 中尾バス停付近

- 先行モデル 旧中津川小学校校庭(秩父市)の選定と整備(令和5年末整備予定)

- ・841㎡(29m×29m)の面積
- ・周辺地権者の了承を得て、飛散物となるトタンやネット等の撤去
- ・鉄柱の撤去や樹木の伐採を実施

